

感染症の予防のための情報提供について

病 名	腸管出血性大腸菌感染症（O26）				
年齢及び性別	20代・男性	職 業	会社員		
住 所	鈴鹿市				
発病年月日	令和7年10月26日				
診断年月日	令和7年11月 6日				
（患者発生の経過） 10月26日 下痢、発熱の症状がみられた。 10月28日 腹痛、血便の症状がみられた。 10月29日 鈴鹿市内の医療機関を受診。 11月 6日 10月29日の便検査から腸管出血性大腸菌感染症と診断された。 現在、患者に症状はありません。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施（鈴鹿保健所）					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】（四日市市保健所分を含む）					
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
患者	25	29	34	32	23
保菌者	12	23	23	12	5
計(感染者)	37	52	57	44	28
※2025年1月1日～2025年11月7日現在まで本件含む 2025年内 患 者：O157（14人）O103（3人）O26（3人）O146（1人） O121（1人）型不明（1人） 保菌者：型不明（3人）O128（1人）O26（1人）					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱（菌を殺す）					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却（菌を増やさない）					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫（10℃以下）や冷凍庫（-15℃以下）に入れましょう。					
③ 清潔（菌をつけない）					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					